

伝統を未来へつなぐために 古典籍の魅力を子どもたちへ

1 目的・概要

古典籍とは、近代以前に日本で製作された書物のことで多くはくずし字で書かれています。内容だけでなく、その装丁や状態なども日本の歴史や文化を知る重要な手掛かりとなります。そのように聞くと、古典籍は何やら貴重で遠い存在のように感じられるかもしれませんが、実は古書店で簡単に手に入れられる、私たちにとって身近な存在でもあります。しかしながら、古典籍について学んだり触れたりする機会はそう多くないことが課題です。そこで、本プロジェクトでは古典籍の身近さや多様さといった魅力を人々に伝えることを目的としました。一年を通し、春学期には履修生自身の古典籍、企画・展示についての学習と同志社女子中学校3年生のWRクラスで出張授業を行い、秋学期には同志社女子中学校で展示、同志社大学でイベントを行いました。



Annual Schedule

2022年	4月	洛東遺芳館フィールドワーク
	5月	慶應義塾大学、佐々木孝浩先生による講演 岩瀬文庫、林知左子さんによる講演
	6月	ホノルル美術館、南清恵さんによる講演
	7月	春学期成果報告会
	8月	同志社女子中学校へ出張授業
	10月	同志社女子中学校での展示
	12月	同志社大学でのイベント「和本祭」
2023年	1月	秋学期成果報告会

2 成果達成度

春学期

春学期は、まず履修生自身が古典籍について知ることから始まりました。図書館で貸出可能な和本を借りたり、各自で古典籍について記述されている文献やウェブサイト調べたりしました。古典籍についての知識を深めた後、人々に古典籍の魅力を伝えるにあたって効果的な企画・展示の方法を学ぶこととなりました。洛東遺芳館に赴いて柏原家の江戸時代から伝承の品々である婚礼調度・絵画・墨蹟・浮世絵・茶道具・衣裳・古書古文書等を拝見し、来場者の目を引く空間の作り方を学びました。また、現在博物館や美術館で学芸員をされているゲストスピーカーの方々をお招きして、来場者が古典籍について詳しくなくとも興味を持ってもらうためにどのように工夫しているのかをお聞きしました。



8月には同志社女子中学校3年生のWRクラス38名を対象とした出張授業を行いました。この授業では和本の多様さを知ってもらうと同時に、中学3年生という進路の選択において重要な時期に生徒たちの進路選択の視野を広げてもらうことを目標としました。生徒たちの和本に対する興味関心を伸ばすために授業は普段のような講義の形式ではなく、基本的な古典籍とくずし字についてのレクチャーを行った後に数人ずつの班に分かれて自由に実際の和本を触ってもらったり、くずし字解読アプリである「miwo」を使って内容を読解してもらったりとグループワークの時間を取りました。グループワークを終えた後、生徒たち自身が何を学んだかを再確認してもらうために触れた和本の中で最も魅力的だと思った和本を班ごとにプレゼンしてもらいました。また、学びを一過性のものにならないためにレクチャーの内容や古典籍を販売している古書店のマップなどを掲載したプリントの配布も行いました。授業後のアンケートでは、ほとんどの生徒から和本に興味を持ち、親しみを感じたという声が寄せられました。

秋学期

秋学期には同志社女子中学校での展示と同志社大学での「和本祭」というイベントの2つを企画しました。

10月に行った同志社女子中学校での展示は、出張授業を受講していない生徒にも古典籍を伝えること、出張授業のアンケートで書かれていたものの、授業中に答えることができなかった古典籍に関する質問に答える目的で行いました。出張授業での内容、質問とその回答を模造紙とパネルに記



載し、和本数冊と和本のレプリカを展示しました。

12月の同志社大学でのイベント「和本祭」でも見るだけでなく実際に古典籍に触れることでその魅力を知ってもらうよう工夫することにしました。また、今までは対象を同志社女子中学校の生徒のみであったのを拡大して、大人から子供まで幅広い層に来てもらえるようにしました。和本、くずし字について簡単に解説したコーナー、和本を見たり触ったりできるように展示したコーナー、和本づくりを体験できるコーナーの3つを設置し、それぞれの場所で履修生が来場された方にコーナーの説明をしました。成果として、およそ40名が来場され、中には留学生の方も見受けられました。普段古典籍に触れる機会のない方にも古典籍の魅力伝えるという本プロジェクトの目的が達成できました。

3 プロジェクトを通じて

一年間を通して、私たちにとって「企画を独りよがりものにしないうこと」が大きな課題となりました。「古典籍の魅力の人々に伝える」ことにごのような社会的意義があるのか、出張授業を受けた同志社女子中学校の生徒や「和本祭」に来場された方にとってのメリットや授業、来場するモチベーションとなるものは何かを考え、それに沿った企画を模索し続けました。様々な紆余曲折がありました。本プロジェクトで私たちが成し遂げたことが参加された方一人一人の日本の伝統文化への理解に寄与することを信じています。



編集後記

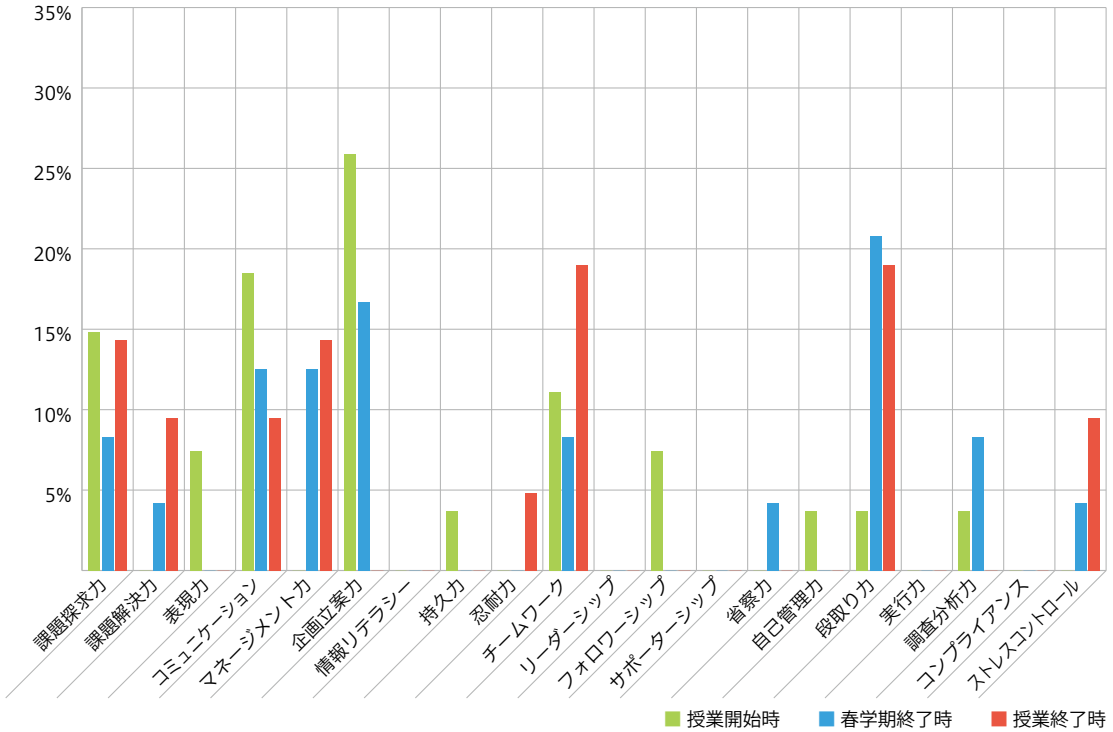
古典籍とは何かを知ることから始まり、3つの企画を終えるまで、全てが順調に進んだわけではありませんでした。特に、メンバー同士の意思疎通や役割分担に苦戦し、一つ一つの企画を練るのに頭を悩ませたように思います。それでも、プロジェクトを進める中で培った、集団としての行動力や自分たちがしようとしている企画を対象者の視点から客観的に分析してきたことはこれから私たちが社会で生きていく上での糧になると思います。この一年、人生において大切なことを学び、苦勞したことも含め貴重な経験となりました。山田先生、TAの酒瀬川さん、メンバーの皆さん、プロジェクトに関わってくださった全ての方々に感謝いたします。ありがとうございました。

プロジェクトメンバー

杉山 みずな(文4) 山本 美結(文3) 長谷田 鈴(文2) 松下 陽香(文2) 西村 典子(文2) 渡邊 笙(文2)
青沼 莉央(法2) 伊藤 優希(経済3)

プロジェクト活動 アンケート集計結果

Q1. チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んでください。



Q2. プロジェクト活動を通じて実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んでください。

